



編集・発行
県南教育事務所



ふるさと鮫川の未来を切り拓いていく人づくり ～さめがわふるさとキャリア教育の実践～

鮫川村教育委員会教育長 武藤 誠

鮫川村では、昨年度教育振興基本計画を改訂しました。少子高齢化、過疎化が一層進む中、“ふるさと鮫川の未来を切り拓いていく人づくり”を基本目標として、「生涯にわたって学び続け、様々な困難を乗り越えながら、いくつになっても夢と希望を持ち、その実現に向けて挑戦し続け、自らの人生を切り拓き、よりよい村づくり・社会づくりに貢献できる人間の育成」を目指して教育の推進に努めています。そして、この基本目標の具現に向け、特に学校教育においては、長年、活発に取り組んできた「ふるさと教育」を展開する中で、その学びを通して「基礎的・汎用的能力」を培い、たくましく、そして自分らしく生きる力を身に付ける「さめがわふるさとキャリア教育」の実践に力を入れています。

ふるさとの身近な教育資源「もの・ひと・こと」に触れながら、ふるさとが大好きになるような学習活動が行われるよう、発達段階を考慮した教育計画（「さめがわ学」）を策定し、小学校では「鮫川村の川・水・魚」〔3年〕、「鮫川村の森林・木・森」〔4年〕、「鮫川村の食と環境」〔5年〕、「鮫川村の文化と未来」〔6年〕をテーマとして学習しています。子どもたちが自分の暮らす地域を知り、身近な人々となつがる学びを通して、ふるさと鮫川のよさを知り、大人になって社会の様々な場で活躍しながら、ふるさとを想い続ける人を育てていきたい

と考えています。

また、学校に負担をかけず地域に根ざしたふるさとキャリア教育がスムーズに展開できるよう、地元鮫川を知り尽くした地域コーディネーター（生涯学習係職員）が、活動に応じた適切な「もの・ひと・こと」と「学校」をつなげています。過日行われた総合学習「ようこそ先輩」の授業では、中学校から相談を受けたコーディネーターが、ふるさとで活躍している卒業生（元競輪選手の村議会議員、畜産業や造園業を営む若手経営者等）に依頼し、生い立ちや体験談、仕事やふるさとに対する想いを話していただき、生徒にとってはこれからの生き方について考えるよい機会となりました。

現在の村の人口は約三千人、想定以上に急速に人口減少が進んでいます。村では今、人口減少に歯止めをかけるために様々な事業を立ち上げていますが、ふるさとが大好きになる、そして社会的な役割を担って未来を生き抜いていく力を育む「ふるさとキャリア教育」は若い世代の人口流出に歯止めをかけ、将来の鮫川村を支える人づくりにもつながるものと思います。今後、小中一貫教育・義務教育学校設置に向け、小中の接続を生かして系統性を持たせた、より充実した「ふるさとキャリア教育」を展開したいと考えています。

受賞おめでとうございます～令和3年度 教育・文化関係表彰～

<ul style="list-style-type: none"> □ 叙勲 <ul style="list-style-type: none"> ○春の叙勲（瑞宝双光章） 元矢吹町教育委員会教育長 栗林 正樹 □ 文部科学大臣表彰 <ul style="list-style-type: none"> ○優良公民館表彰 泉崎村中央公民館 ○地域文化功労者表彰 元矢吹町文化財保護審議会会長 藤田 正雄 ○優秀教職員表彰 棚倉町立棚倉中学校主査 尾又 芳行 □ 県教育委員会表彰 <ul style="list-style-type: none"> ○地方教育行政功労者表彰 元矢吹町教育委員会委員 水戸 勘十 ○教育文化関係表彰 <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒（団体）の部 白河市立白河第一小学校特設器楽クラブ ・優秀教職員の部 白河市立白河第三小学校主幹教諭 伊東 恭一 西郷村立熊倉小学校教諭 伊永島 恵子 棚倉町立棚倉小学校教諭 小松 光恵 中島村立中島中学校教諭 上野 美紀 ・優秀教職員（団体）の部 棚倉町立棚倉小学校教職員 ○永年勤続教職員表彰 小・中学校 37名 県立学校 17名 	<ul style="list-style-type: none"> ○教職員研究論文（団体） <ul style="list-style-type: none"> ・特選 棚倉町立棚倉小学校 ・入選 塙町立塙小学校 ○ふくしまっ子ごはんコンテスト学校賞 西郷村立川谷小学校 塙町立笹原小学校 白河市立五箇中学校 白河市立大信中学校 塙町立塙中学校 □ 県学校保健会表彰 <ul style="list-style-type: none"> ○学校保健功労者 白河市立小田川小学校 養護教諭 芳賀 明美 □ 県学校歯科保健優良校表彰 【年度表彰】 <ul style="list-style-type: none"> ○優秀賞 西郷村立羽太小学校 中島村立滑津小学校 白河市立白河第一小学校 白河市立みさか小学校 西郷村立米小学校 中島村立中島中学校 ○努力賞 白河市立釜子小学校 白河市立信夫第二小学校 中島村立吉子川小学校 鮫川村立鮫川小学校 西郷村立熊倉小学校 西郷村立小田倉小学校 白河市立東中学校 ○奨励賞 白河市立小田川小学校 白河市立五箇中学校 棚倉町立棚倉中学校 	<p>※敬称略</p> 
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------

夢と希望を育む県南の教育の推進

～学校教育課 令和3年度事業の成果～

豊かな心の育成

県南教育事務所では、「豊かな心の育成」のために、「道徳教育・教育相談体制」に重点を置いて取り組んでいます。

「道徳教育の充実」については、12月2日、鮫川村立鮫川小学校を会場とし、道徳教育地区別推進協議会を開催しました。実際の授業を参観し、道徳的価値を自分事として考えさせることや、多面的・多角的に考えさせる工夫について研修を深めました。また、道徳教育の充実に向けた取組について秋田公立美術大学毛内嘉威様より講演をいただき、自校の「道徳教育」を見直す視点を定めることができました。

「教育相談体制の整備」においては、令和3年1月に、福島県教育委員会が作成した「ふくしまサポートガイド」を、生徒指導訪問の折に持参し、特にこの資料中にある「安心して学べる環境の整備」について話をしたり、SNS上のトラブルを防ぐために、情報モラル教育の充実をお願いしたりしてきました。また、今年度より「教育相談コーディネーター研修会」が新たに始まり、研修を通して、先生方の力量の向上に努めてきました。県南域内では、不登校者数が増加傾向にありますので、今後もSCやSSWの配置や活用も含めて、よりいっそう教育相談体制の整備を進めていきます。

ふくしまサポートガイド



学びの変革に向けて

今年度は、新学習指導要領が中学校まで全面实施となり、GIGAスクール構想により1人1台端末がすべての学校で整備されました。各学校におかれましては、授業改善やICTの効果的な活用についての研修を進めていただきました。加えて福島県教育委員会の各種事業において、実践研究に協力いただいた各学校において、今年度の取組によって多くの成果を収めていただきました。

また、2年ぶりの実施となった「全国学力・学習状況調査」並びに「ふくしま学力調査」では、特に「ふくしま学力調査」の結果から、限られた学年ではありましたが、児童生徒の学力の伸びや非認知能力等の変化が示されました。次年度に向けて、計画的に分析等を行い、効果的な活用につなげていただきたいと思います。

福島県教育委員会では、昨年12月に第7次福島県総合教育計画を策定いたしました。「全ての子どもに必要な資質・能力を確実に育成することを目指し、一方通行の画一的な授業から、個別最適化された学び、協働的な学び、探究的な学びへと変革する。」という学びの変革の推進を掲げております。県南教育事務所といたしましても、この計画に基づいた重点支援を次年度のグランドデザインに位置付けてまいりたいと思いますので、御理解と御協力をお願いいたします。

健康課題解決に向けた基盤づくり

全国体力・運動能力調査の結果、県南域内では、下の表のとおり小学女子・中学男女で全国・県平均を上回りました。しかしながら、R1(R2は調査中止)と比較すると、小中学男女すべてにおいて合計得点が低下しました。また、肥満傾向児出現率においても、小学女子、中学男女で昨年度より増加しました。

全国体力・運動能力調査 合計得点の比較

	小学5年男子	小学5年女子	
県南合計得点	52.3	56.1	
全国得点・県南比較	52.5 ▲0.2	54.7	1.5
県得点・県南比較	52.4 ▲0.1	55.7	0.4
R1県南得点比較	53.8 ▲1.5	57.1	▲1.0
	中学2年男子	中学2年女子	
県南合計得点	41.6	49.9	
全国得点・県南比較	41.1 0.5	48.4	1.5
県得点・県南比較	41.3 0.3	49.0	0.9
R1県南得点比較	42.3 ▲0.7	50.2	▲0.3

肥満傾向児出現率

	前年度との比較
	出現率
小学男子	13.7
(前年比)	▲0.1
小学女子	10.8
(前年比)	0.2
中学男子	12.4
(前年比)	0.7
中学女子	10.7
(前年比)	0.1

これは、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響が大きいと思われます。各学校においては、コロナ禍においても、活動制限による体力の低下を防ぐため、感染拡大防止に努めながら教育活動を進めていただいているところではありますが、更に子どもの体力向上を図るために、運動やスポーツをすることが好きな子どもの育成を目指し、体育の授業の工夫改善や「自分手帳」を活用しての児童生徒の健康マネジメント能力の育成を一層進めていただきたいと思います。

特別支援教育の充実を目指して

今年度の特別支援教育体制整備状況調査において、県南域内の特別支援学級及び通級による指導における個別的教育支援計画、個別の指導計画の作成率が100%となりました。今後更に、計画に基づく授業実践、評価、改善を行い、一人一人の実態に応じた学びの提供につなげていくとともに支援が切れ目なく行われるように引き継ぎでの活用にも努めていただきますようお願いいたします。また、通常学級に在籍する支援の必要な児童生徒に対しても、作成及び活用を図っていただきますよう、よろしく申し上げます。

自立活動の個別の指導計画に関しては、特別支援学校学習指導要領解説[自立活動編]の流れ図に沿って作成している学校があり、「児童生徒の課題が整理できた。課題の背景の読み取りに関して新たな気づきがあった。」などの意見も聞かれました。特別支援教育センターで提示している様式を用いている学校も増えてきています。対象となる児童生徒全員の個別の指導計画の作成と自立活動の理解促進に向けて教育事務所としても継続して働きかけてまいります。

今後も地域で共に学び共に生きる教育を目指して、市町村教育委員会等と連携を図りながら、県南域内の特別支援教育の推進に取り組んでまいりますので、御理解、御協力をお願いいたします。

学校と地域の連携・協働の推進

～第7次福島県総合教育計画から～

第7次福島県総合教育計画が、昨年12月に策定され「『福島ならではの』教育の充実」が掲げられました。

策定にあたっての教育長メッセージで述べられた「地域の皆様と連携しながら」「地域の方々と交流しながら学ぶ機会の充実」「学校の力だけでなく、地域の力、家庭の力が不可欠です。」等の言葉から、「『福島ならではの』教育の充実」のためには「地域との連携・協働」が重要であることが分かります。

施策4の主な取組である「学校と地域の連携・協働の推進」の1つは、「地域コーディネーターの配置や、コミュニティ・スクールの導入等により、地域住民等と学校が連携・協働する体制づくりを促進し、子どもが学校外の大人と交流したり相談したりできる体制の構築を目指すとともに、各学校の特色化や魅力化を図ります。」とされています。

学校と地域の連携・協働は、これまでも各教育委員会や各学校において取り組まれてきましたが、今後はその重要性が増してくると思われます。

この県南域内でも、各教育委員会が主体となって、コミュニティ・スクールの導入や地域学校協働本部の設置等、学校と地域の連携・協働体制の整備を進めています。

また、「このままでは、数年後に学校がなくなってしまふ。魅力のある学校をつくり、入学する児童生徒を確保したい。」という願いに応えようと、校長のリーダーシップのもと、特色ある地域との連携・協働に取り組んでいる学校もあります。

学校が地域に貢献するという視点の転換も必要になるでしょう。これからの学校と地域の連携・協働を推進していく上では、学校と地域がWINWINの関係になることも大事だと考えています。



本年度を振り返って



「定時制高校での学び」

白河第二高等学校
教頭 大平 武志

新任教頭として赴任1年目、定時制高校での経験も豊富な白石文夫校長先生のご指導の下、夜間高校の教育にも情熱溢れる先生方と高校教育の改革期に、私自身多くのことを学びながら勤務しております。

少子化とはいえ、様々な環境を抱えた生徒たちが入学しており、少人数で個に応じた学習・進路指導を通じて、入学して良かったと思ってくれる生徒たちのために日々奮闘しています。今後も保護者・地域社会と連携を図り、働きながら学ぶ生徒たちの明るい未来のために精一杯取り組んでまいります。



「本年度を振り返って」

泉崎村立泉崎第一小学校
教諭 関根 徳雄

辞令交付式では、福島県の求める3つの教師像を目指し、先生方の御指導をいただきながら研修に励んでいくことを宣誓しました。校内研修では、先生方の授業を参観し、日々の深い教材研究をもとに児童の実態に合わせた授業を計画し、実践されている姿から多くを学びました。そこで学んだことをもとに実践しようとしたのですが上手いかず、先生方との力の差を痛感しました。しかし、自分の実践に対して細かな指導や助言をいただき、修正することで前に進むことができました。これからも目指す教師像に近づけるよう、研修に励んでいきます。



「凡事徹底」

矢祭町立矢祭小学校
教頭 鈴木 康泰子

「当たり前のことを当たり前に行う」ことが大切である。校長先生から「凡事徹底」の大切さをご指導いただいた。学校生活において全職員で何事にも取り組もうということであった。1年が終わろうとしている今、「凡事徹底」できていただろうか。教頭として何が徹底されただろうか。子どもたちに、先生方に、地域の方々に何ができたのだろうか。気持ちの良いあいさつ、いつでも聴ける雰囲気、適切なアドバイスなど、相手が気持ちよくなるような対応を今後も心がけていきたい。そして、子どもたちや地域の方々から愛される学校となるよう励んでいきたい。



「1年を振り返って」

西郷村立西郷第二中学校
養護教諭 穴沢 直美

本校に着任してから1年、振り返れば初めての中学校勤務に迷い、悩む日々でしたが、温かな先生方と、素直な生徒たちに支えられた1年間でした。コロナ禍でなかなか同期にも会えない中、互いに声を掛け合い、初任の1年を乗り越えられたことをうれしく思うと同時に、ここからがまた新たなスタートと身が引き締まる思いです。長く講師として働き、これまで多くの子どもたち、地域の方々、そして先生方と出逢えたことで今があると思います。今後も出逢いに感謝し、「心に寄り添える」養護教諭を目指し、子どもたちのために、そして子どもたちと共に成長していけるよう精進してまいります。



小 学 校 紹 介

令和4年4月1日に白河市立大信中学校区の3つの小学校が統合し、「白河市立大信小学校」となります。今回は、その3校の学校紹介となります。歴史のある3つの小学校、それぞれの良さが存分に発揮された学校自慢です。

「みんなが行きたくなる学校」

白河市立信夫第一小学校

「冬休みはうれしいけど、学校が休みになるのはやだなあ」第2学期終業式の日の子どもたちの言葉に、とてもありがたい気持ちになりました。本校の子どもたちは、学校が大好きなのです。そんな子どもたちを日々育てている教職員は、みんな明るく元気いっぱい。子どもたちと一緒にの時間も、放課後の職員室も、笑顔と笑い声が絶えません。保護者は大変協力的で、PTAの環境整備や資源回収には、常にたくさんの方が参加されます。授業参観や学校行事においても、マナーを守り、手本を示しながら、子どもたちのがんばりを見守ってくださいます。ヤギのランチちゃんのために、野菜をどっさり届けてくださるおじいちゃん。先生方は忙しいだろうからと、チームを組んで広い花壇の手入れをしてくださるおばあちゃん。地域の方々にも、学校を支えていただいています。

このように、みんなが行きたくなる信夫第一小学校も、まもなく149年の歴史に幕を閉じます。本校のよさや素晴らしさは、大信小学校にしっかりと引き継いでまいります。



「日本一の学校」

白河市立大屋小学校

大屋小学校最後の1年間の目標は「あいさつ、やさしさ、日本一の学校」でした。

「日本一」になることが目標なので、半端な取組ではそれを達成することができません。子どもたちと一緒に決めたのが次の2つのことです。

1. 学校の中でも外でも、すれ違う人には心を込めてあいさつをする。
2. 自分と関わる人すべてを大切に、誰に対してもやさしい言葉を使う。

もともと素直でやさしい子どもたちですが、日本一という目標を達成するために、行動の質を高めてくれました。朝はこちらの姿を見つけると、どんなに遠くからでも元気な「おはようございます。」を届けてくれます。校舎の中でも、あちらこちらで爽やかなあいさつの声が響き渡っています。上級生が下級生をサポートするのは当たり前、困っている友達を自然に手助けできる子がたくさんいます。大屋小学校は、そんな子どもたちがいる自慢の学校です。



「咲き誇れ信夫二プライド」

白河市立信夫第二小学校

「自分、そしてみんな 前進を続ける信夫二小」
コロナ禍でも、地域と学校が丸となり記憶に残る数数のファイナル行事を実施することができた。夢と希望に向かって歩みを止めず、日一日と、成長することができた。最後までスローガンどおりの学校であった。

1890年(明治23年)信夫小学校飯土用分教室として創立後、1947年(昭和22年)に信夫村立信夫第二小学校となった本校。今年度末で131年の歴史に幕を閉じるが、信夫二小としての歴史と誇りは、永遠のものである。

道は一すじ 田圃道 朝夕通ふ 楽しさは
ほほえみかける 那須の山 ああ この光 さす限り
平和の里よ いつまでも われらの信夫第二小

令和4年春。本校最後の卒業生は大信中学校へ、そして在校生は大信小学校へ旅立つ。信夫二小で身に付けた世界一の心の美しさ(挨拶・掃除等)に自信をもち、さらに活躍してほしい。



【令和3年度事業取組校紹介】

今年度も各種事業推進にあたり、以下にご紹介する各学校にご協力いただきました。ありがとうございました。

- 教科担任・タテ持ち推進校
棚倉町立棚倉小学校・白河市立白河第二中学校
- AI時代を生き抜く読解力向上事業
境町立境小学校・笹原小学校・境中学校
- 小中英語パートナーシップ事業
西郷村立米小学校・羽太小学校・熊倉小学校
西郷第一中学校
- ふくしま外国語推進リーダー(本務校)
白河市立みさか小学校・矢吹町立矢吹小学校
棚倉町立棚倉小学校
- 理数教育優秀教員活用事業(配置校)
(理科) 中島村立滑津小学校・白河市立白河第二中学校
(算数・数学) 境町立笹原小学校・白河市立表郷中学校
- スペシャルサポートルーム実践校
矢吹町立矢吹中学校・棚倉町立棚倉中学校
- 道徳教育支援事業研究推進校 鮫川村立鮫川小学校
- キャリア教育支援事業研究推進校
棚倉町立近津小学校・棚倉中学校
- ふくしま「未来の教室」授業充実事業
矢吹町立善郷小学校・矢吹中学校
- 次世代のためのメディアリテラシー育成事業
白河市立表郷小学校・表郷中学校
- ふくしまの未来を拓く産業人材育成事業
「専門高校生による小中学校体験学習支援事業」
白河市立白河第一小学校・東中学校・白河実業高校
- “ひがししろかわ”輝くふる郷体験事業
棚倉町立棚倉小・社川小・高野小・近津小学校
境町立境小・笹原小学校・矢祭町立矢祭小学校
鮫川村立鮫川小学校

県南教育事務所発行「県南社教 TIMES」及び「学校教育課通信」において取組の一部を紹介しています。

【県南教育事務所Webページ】

<http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/70310a>